

10. 附属教育実践総合センターの概要

所在地 大分市王子新町1-1(附属校園に隣接)

(電話 543-4933 ファクシミリ 543-4936)

昭和54年、大分大学教育学部附属教育実践指導センターとして開設以来、教育実践に関する理論的・実践的研究を行うとともに、教育実践の指導力を身に付けた教員の養成を担ってきました。

平成13年4月からは、大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センターと改称し、教育実践開発分野(教育実践研究領域・教育情報システム領域)と発達教育臨床分野(教育臨床心理領域・発達障害臨床領域)の2分野4領域に渡り、学部附属共同研究・教育実習・「まなびング」サポート・教育相談・現職教員研修等の5つの事業を展開しています。

本学部の附属教育実践総合センターは、概ね次の活動を行っています。

1) 学部附属共同研究

学部と附属学校の教員が共同で、教育実習の内容・方法の改善、カリキュラムの開発及び教育臨床的なプロジェクトの研究を進めています。これらの研究成果を公表するために、センターでは『教育実践総合センター紀要』『教育実践総合センターレポート』を定期的に刊行しています。

2) 教育実習関連

教育実習の事前指導、事後指導の企画・立案を行い、実施に当たっては、附属学校園や県教育委員会等の協力を得て、学生の教員としての資質形成の動機づけや深化を図っています。

3) 「まなびング」サポート関連

大分市教育委員会との連携のもと、大分市内の公立学校において、児童・生徒の学習活動の補助をとおして、子どもへの理解を深めるとともに学生の教育実践能力を高める事業を展開しています。(学部共通科目②の「教育支援実践研究Ⅰ」「教育支援実践研究Ⅱ」として正規の科目に位置づけられています。)

4) 教育相談

いじめ、不登校などの問題を持つ児童・生徒や保護者に対するカウンセリング、教師へのコンサルテーション及び、障害児の発達教育相談など、教育臨床的・発達臨床的な相談活動を展開するとともに、地域の相談ネットワークの中核としての役割を果たしています。

子どもや保護者に対する相談・支援

問題の理解や解決にむけての助言や情報提供とともに、必要に応じて継続的なカウンセリングを行います。

教師に対する相談・支援

教師が子どもをよりよく理解し、専門性を生かしながら主体的にかかわれるよう、コンサルテーションを行います。

5) 現職教員(客員研究員)研修

県内の公立学校の現職教員を毎年6名客員研究員として受け入れ、各自のテーマに沿って教育実践研究の支援を行っています。現職教員研修の充実の一環として、現職教員の資質の向上に寄与するとともに、センターと地域学校の連携を緊密にする役割を果たしています。